



「高校生による今日的課題へのプレゼンテーションコンテスト （『国際高校生フォーラムin倉吉』）—日韓英の高校連携と知への挑戦—」

鳥取県立倉吉東高等学校高校生フォーラム実行委員会

ねらい・目的

本校では、2001年、学校改革として、長期ビジョン「倉吉東高のかたち」を策定し、地方公立高校としての使命と役割を自己規定した。その中で、学力+ α 、その α の一つとして、より高い志を持った生徒、日本・世界という地球規模でものを考え、発表できる生徒、さらに、将来にわたり社会貢献をベースにした自己実現をはかる生徒の育成を掲げた。

当時、本校へ入学する生徒には、一部刹那的、現状肯定的、他人依存的な傾向が見受けられ、自宅学習時間の減少に見られるような、主体的に学ぼうとする力の不足が指摘されていた。また、自分のことや目先のことを超え、未来や社会貢献といったところにまで意識が及んでいる生徒は必ずしも多くはなかった。そのため、生徒に明確な進路目標を持たせるとともに、自らの高校3年間のストーリーをイメージさせ、学びの意味や価値を自覚させ、主体的な学習者に導いていく必要があった。

このことは、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育て」「問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考える」という学習指導要領に示された「総合的な学習の時間」のねらいにも繋がる。そこで、生徒の志をより高いものとし、将来の日本及び世界で貢献できる資質を身につけた人材を育成するために、高校生自らが現代社会の諸問題に真正面から取り組み、その解決策をプレゼンテーションし、競い、討論する場として、「国際高校生フォーラム」を開催することとした。また、この「フォーラム」で全国の仲間との知的交流や高度な刺激の授受を通し、生徒一人ひとりが、より高いレベルの学びに向かう主体的な学習者と

なることを願うものである。

この「フォーラム」は、本校の学校改革（1994～2003年度）における一つの到達点を示す行事として企画され、地方の普通科公立高校がネットワークを図るものである。2002年に第1回が開催され、本年で第7回目を終えた。

内容

この「フォーラム」は、全国から、そして韓国、英国から参加した9校の代表によるプレゼンテーションコンテストと討論、ゲストコメンテーターの基調講演、講評で構成される。

「フォーラム」の流れ（次頁資料）は、①現代社会の諸課題から抽出されたテーマについて、インターネット等を利用して調査、研究、思索したことをもとに、②パワーポイントなどIT機器等を効果的に活用してプレゼンテーションしながら、③自分たちの主張や提言としてまとめ、発表する。④討論で質疑応答と相互評価を展開し、⑤最後にゲストコメンテーターによる講評・表彰（最優秀校、優秀校）を行うものである。

これまでのテーマは、環境問題、21世紀の教育、世界秩序、国際貢献等である。この模様は、インターネットを通じてライブで全世界に向けて配信された。これにより、国内はもとより英国、韓国でも直接プレゼンテーションを見ることができた。さらに、この「フォーラム」専用のサイトでは、過去のプレゼンテーションの概要・写真とともに、その内容の一部を動画共有サイトを通じて、オンデマンドで見ることができる。

実践結果（今後の課題）

(1) 実践結果

「フォーラム」は、これまでの個人的な世界で



の学習の枠を超えた協働的な活動としての学びの場であり、チームとして議論を重ね、その中から具体的な解決に向けて合意形成し、その結果を発表することは高校生の知への挑戦であった。

また、メールの交換をはじめ国内外の高校生とのさまざまな交流は、高度な刺激の中で、多くの出会いと感動を生み、生徒たちにとって、貴重な青春の財産となった。さらに、企画から運営まで全国規模の学術的なイベントを開催するとともに、その様子をインターネットにより全世界に配信できた経験は、生徒にとって大きな自信となり、「フォーラム」後の他のさまざまな学校生活の場面で主体性を育むなど良い影響をもたらした。

プレゼンテーションでは、現代社会の最重要課題に対し、たとえ高校生の段階でも、深く考えることができること、高い調査・研究のレベル、高

校生らしい新鮮で大胆な発想、そして具体性と展望のある解決策を提言することができるということがすべての参加校で示された。

「第2回フォーラム」のゲストコメンテーターの一人であった東京大学の荻谷剛彦教授は「全体を通して、本当に質の高いプレゼンテーションだった。…難しいテーマに果敢に取り組んでそれぞれユニークな視点から分析をして、しかも高校生らしい提言をしてくれた」とコメントされている。また、「第6回フォーラム」のゲストコメンテーターの一人であった京都大学の佐伯啓思教授も、「プレゼンテーションそのものは9つの参加校すべてが非常に高い水準で、非常に面白く聞かせて貰った」とコメントされている。

さらに、生徒も、「フォーラム」を通して得た出会いに感謝したり、「フォーラム」で学んだ「思

考技術」をきっかけとして、自身も何かできると、強く感じたりしたものであった。

また、韓国から参加した生徒は「考えていることやアイデアなどをステージの上で討論し、分かち合った我々にとって、この『フォーラム』の価値は言葉で言い表すことなどできない」「この『フォーラム』は新しい経験と新しい意識を得たという点でより価値のあるものとなった。それは、過去の出来事によってもたらされていた気持ちの上での障壁が壊され、現実を見るようになった。私たちの知識を広げてくれただけでなく、究極的には、韓国と日本の友好を深めてくれるものだと確信している」といった感想を寄せてくれた。結果的に、国内参加校との交流が深まり、政情に左右されない相互の理解と信頼関係の構築に繋がっている。

(2) 今後の課題

プレゼンテーションした諸課題に対する解決策で受け入れ可能な内容や手法について、さらに具体化し実行に移す試みが着実に行われれば、生徒をさらに激励することにもなり、今後の「フォーラム」の発展に繋がる。

また、「フォーラム」での交流を継続性のあるものにするために、地方公立高校の連携をさらに密にし、より多くの高校生が参加し、議論できるインターネット討論会のような場の整備が望まれる。

さらに、「フォーラム」専用のサイトにおいて、公立高校の連携を推進するために、「フォーラム」の開催時の情報以外にも、各参加校での準備段階の様子、人材育成に向けた教育活動と実践事例についても、情報発信していきたい。

PR (特徴・工夫・努力した点など)

(1) 特徴

- 「フォーラム」の運営の主体を生徒に委ねた。
60名を超える生徒スタッフと教職員から成る実行委員会で運営している。
- プレゼンテーション、討論等は、インターネットを通じてライブ中継することで、国内外の高

校でも直接見るができる。

- 「第5回フォーラム」から今年の「第7回フォーラム」には、コンピュータ・ソフトウェア会社から特別に協賛を得ている。インターネットによるライブ発信、パワーポイントの高度なテクニックを駆使した質の高い内容のプレゼンテーションを評価していただいた。
- 「フォーラム」の参加校は、本校のほか、浜松北（静岡）、松江北（島根）、甲南（鹿児島）、松本深志（長野）、岡山操山（岡山）、修猷館（福岡）といった地方の代表的な普通科進学校と、韓国の安養高校、英国のペインズスクールといった両国の伝統校の9校で、本校のある鳥取県倉吉市に参集する。地方公立高校の連携という新たな教育活動の形態と言える。

(2) 工夫・努力した点

- 「第1回フォーラム」の開催に向けては、運営を委ねる生徒への趣旨説明や理解を得る必要があった。生徒にとって、「フォーラム」はどちらかといえば硬派なイベントであり、生徒に意識改革を迫るものであった。このための働きかけを十分行ったあと、生徒にアンケートを実施した。その結果、半数を超える生徒の支持を得ることができた。
- プレゼンテーション、討論の内容は、ライブ中継されるものの一過性であり、講評者から、「非常に高い水準」と評価されたプレゼンテーションのコンテンツをより多くの人に知ってもらうために、その一部を動画共有サイトによりオンデマンドで提供している。
- 「フォーラム」の企画から開催までをスピード感をもって進めたことで、実行委員会の組織力と生徒のエネルギーを持続させることができた。

備考（実践の参考となる公開中のHPアドレス、写真、資料等）

国際高校生フォーラムin倉吉

<http://sotoforum.blog36.fc2.com/>

参加校を紹介したオープニング映像

<http://jp.youtube.com/watch?v=-NFDIUtpYM>